夏期海外語学研修報告

海外語学研修「英語 A」実施報告

5 月 10 日の参加者募集説明会を皮切りに、8 月 6 日の研修事前指導を経て、本プログラムは、夏季休暇期間中の 9 月 2 日から 9 月 22 日の約 3 週間に渡ってオックスフォード大学ハートフォード・カレッジで実施された。参加者は学類生 6 名、大学院生 1 名の計 7 名であった。研修期間中、参加者はハートフォード・カレッジの学寮に滞在し、Residential Advisor (RA) を含むカレッジの学生たちと起居を共にし、同じ規律の下で生活した。

授業については、参加人数の関係で、今年は一部和歌山大学と共同での実施となった。月曜日から木曜日の午前中の演習は、2 コマ 3 時間で、英語の総合的活用力を図り、午後は、「オックスフォードの建築物」、「不思議の国のアリス」など、特定のトピックを中心に講義と演習が 2 時間にわたって実施された。金曜日に実施された視察研修を除いても、授業だけで 1 週当たり約 20 時間、3 週間で 60 時間以上、英語と集中的かつ能動的に関わる経験を積むことができた。さらに平日の夕方は、カレッジの学生たちとシェルドニアン劇場、アシュモリアン博物館、他のカレッジなどを始め、オックスフォード市内の施設を訪問したり、スポーツやレクレーションなどの課外活動を行ったりして、一層の交流が図られた。第 3 週目の木曜日は研修の成果を披露する最終プレゼンテーションが実施され、参加者はグループ別に「日本の食文化」、「武道」などのテーマで発表を行った。

また、金曜日には視察研修旅行が実施され、第 1 週目は、ソールズベリーとストーンヘンジ、第 2 週目には、ストラットフォード・アポン・エイボンへ出かけ、英国の歴史と文化に直接触れる機会が得られた。土曜日はプレゼンテーションの準備や、図書館での自主学習、自主研修に充てられた。

本プログラムは、ハードフォード・カレッジでの研修に合格するだけでなく、期間中毎週末に学習と体験のポートフォリオを筑波大の担当教員に送付し、研修終了後には英文の課題レポートを提出することになっており、成績もそれら 3 つを総合して判定された。ポートフォリオから、参加者は英語を積極的に使用する意義を実感するとともに、英語使用に対する苦手意識が週を追うごとに減少し、次第に自信を深めたことがうかがえた。また、直接的異文化体験を通して英国に対する関心もいっそう高まり、より長期の留学プログラムへの参加を希望する学生も出るなど、本プログラムの目的は達成できたと思われる。

（久保田　章）



Welcome Tea Party

平成 30 年度ロシア連邦サンクトペテルブルグ国立大学夏期ロシア語研修について

2018 年 9 月 2 日から 9 月 26 日までの 3 週間強、本学の協定大学であるロシア連邦サンクトペテルブルグ国立大学の協力・支援のもと、同大学文学部付属ロシア言語文化カレッジにおいて夏期ロシア語研修（自由科目「ロシア語」3 単位として開講）を実施し、本学から 5 名（心理学類 3 年生 1 名、情報メディア創生学類 3 年生 1 名、知識情報・図書館学類 3 年生 1 名、国際総合学類 2 年生 1 名、情報メディア創生学類 1 年生 1 名）が研修に参加した。この夏期ロシア語研修は CEGLOC 開講の授業としての認定を受け、45 時間の授業時間を確保して研修期間が決められる。人文社会系加藤百合教授（CEGLOC 協力教員）が引率・調整を担当し、週末や放課後などを利用して、ロシアの文化や政治･経済情勢についての研修も付加された。

本年度は現地での引率・通訳のため、本学 Ge-NIS プログラム協力教員であるモスクワ市立教育大学准教授ミソチコ・グリゴリー先生および筑波大学 CEGLOC において昨年度春学期まで 4 年間ロシア語教育を担当されたアブィヤカヤ・オレーシャ先生が文化研修の際に同行補助された。参加者は、出発前に、危機管理研修、直前研修等数回の事前研修に参加した。ロシア語履修がまだ数か月である 1 年生をはじめ、ロシア語運用能力が十分ではなかった参加者については、Ge-NIS 専任教員であるバフロメーエフ・アナトーリィ先生が、一学期分（10 コマ）に相当するロシア語の補習授業を実施して、1. ロシア語（キリル文字）の読み書き、発音 2. 初級文法についての説明（教科書・教材を配布）3. 日常会話に必要な表現について集中的に学んでもらい、サンクトペテルブルグ大学のロシア語コースでの学習効果が期待できるよう事前準備を行った。

参加者全員が、サンクトペテルブルグ国立大学の斡旋によりロシア人家庭でホームステイし、生きたロシア語とロシア人の実生活を体験した。ロシア語だけでコミュニケーションをとった家庭が多く、ホストファミリーと毎日会話して意思を疎通したいというのはロシア語学習のさらなる強い動機となった。よく使う語彙や表現について露英対照表をつくってくれる、家庭でもロシア語を教えてくれるなどよい環境だった。

到着翌々日に大学でプレイスメントテストを受け、自分のレベルにあったクラスに入り、文法、会話、発音、読解の各科目についてレベル別の小グループで授業を受けた。いずれも適正な授業を受けてロシア語力を大きく伸ばすことができた。3 週間は短期ではあるが海外語学研修の効果は目に見えるものであった。

授業外に組んで実施した研修には次のものがあった。

1. 日本総領事館表敬 および領事による特別講義（9 月 5 日）

領事からは、本研修日程の開始にあたっての危機管理について、また、ペテルブルグにおける生活についての貴重なお話をうかがった。学生さんたちが活発に多くの質問をし、予定の時間を延長して対応してくださった。

2. 日本センター訪問および担当者による特別講義（9 月 6 日）

ペテルブルグの産業について、また日本人の活動状況について、スライド等も利用して特別講義をしていただき、そのあとディスカッションを行った。また、日本センター付属日本語教室における授業に参加し、学習者と日本語・ロシア語で自己紹介をし合った。

3. 日本語学習者との交流会（9 月 9 日）

日本センターでは毎週水曜、土曜に日本語教室が行われておりその生徒は日系企業に勤務するロシア人が多数を占める。サンクトペテルブルグ市内に 3 年前に開店した日本茶販売・ティーサロン「福寿園」のマネージャーをつとめるエレナさんが筑波大生と続けて交流したいということで「福寿園」で懇談会を企画してくれた。

4. 日本センターにおける日露交流会（9 月 22 日）

日本センターが今夏マラータ通りから市の中心であるネフスキー大通り沿いへと移転したのを機会に、より市民に開かれた日露の交流会に力を入れたいということで、その第一回が開催された。筑波大学と法政大学が短期研修滞在中で、両大学が自分の大学と日本および大学の立地する地方についてのプレゼンテーションを行い質疑にこたえてディスカッションを行った。筑波大学側では全員参加で「つくばってどこ？」「筑波大学はこういう大学」といったパワーポイントを作成してユーモアもあるプレゼンテーションを行った。日本語とロシア語の両方で対訳的に話したので、日本語学習者である聴衆の興味を強く引き付けるものであった。今後月一回位同様の交流会をもちたいので、筑波大学からの交換留学生が来ればぜひインターンシップとして統括・準備をお願いしたいということであった。

5. そのほかは各自見学を行っていった。日本語学習者や、筑波大学留学経験者が郊外や市内を案内してくれる機会も多くあり、互いによく助け合って行動し、危険もなく大学での授業以外の時間も充実したものとなった。

帰国後 10 月 15 日（月）、G-NIS プログラム第 3 期生と合同で帰国報告会を行なった。また、提出された報告レポートも充実したもので、参加学生たちが大きな刺激を得て今後のロシア語学習への強い動機を得たことがうかがえた。





＊「はばたけ筑大生」によるご支援をいただきありがとうございました。

（文責 加藤百合）

バイロイト大学夏期講習について

相澤　啓一



長年続いてきたバイロイト大学との夏期講習による交流は、昨年いったん途切れてしまったが、今年は定員 10 名をはるかに超える希望者が殺到し、希望が叶わなかった学生の何人かが他のドイツの大学の夏期講習を受講するほどの盛況となった。結果的に、学類生 7 名、院生 3 名が受講し、その多くがひきつづき滞在してドイツの大学で留学している。

参加後に提出してもらった感想文で、受講者のひとりは「私はこの一か月間で多くのものや出来事に触れ、そこから多くを学ぶことができた。ここでの学びをこれからに生かしていきたいと思う。本当にバイロイト研修に参加できてよかったと思う。」と記しているが、その思いは全員に共通しているようだ。じっさい現地を視察してみて、学生たちの満足度が非常に高いのもわかった気がする。筑波大学の学生たちはいくつかのクラスに分散していたが、どのクラスも、世界のさまざまな地域から集まった学生たちがプロフェッショナルな教員の工夫に満ちた授業を受けていた。今年の夏期講習の様子はバイロイト大学によりビデオレターが発信されている（https://www.youtube.com/watch?v=l3lx5YByFeM）。そうした講習参加の意義については、実際に参加した学類生のみなさんに直接語ってもらうこととしよう。

- そもそも私がこの研修に参加しようと思ったのは、単純にドイツ語が話されている地域でドイツ語を習ってみたいというのと、今まで海外に行ったことがなかったので一度行きたいと思ったからです。筑波大に入学するまで、海外は自分とは縁遠いものだと思っていました。加えて、留学（およびそれに類すること）に限らず渡航自体に関する知識がなかったので遠ざけていたところもあります。そのため、今回奨学金がもらえる人数制限に焦って勢いで申し込んでしまって、本当に良かったです。
- クラスメイトの人の良さも自分が授業に毎日行くモチベーションになった。クラスの中には、オーストラリアから来た御歳 82 歳の女性もいた。彼女は学生よりも元気で非常にパワフルでよく笑い、私たちにも明るく話しかけてくれた。また、学ぶ姿勢も前向きで、授業中も積極的に質問していた。彼女の主体的に学ぶ姿勢は、本来は私が持つべきであろう「勉強」

に対する意識を再考させてくれた。クラス内にはアルジェリアから来た17歳の男の子もいた。彼から学ぶことも多かった。彼は父の仕事の関係でこの夏からドイツで生活をはじめたばかりといい、秋からはドイツの現地高校に通うという。彼にとってドイツ語は一からのスタートになるため、非常に意欲的に学習していたのが印象的だった。ダイバーシティの中で学習できたことは、多様な価値観を知る上で非常に効果的であったと感じる。

- バイロイトを選んでよかったと思うのは、世界中から学生が集まっていたことである。ヨーロッパやアジアだけでなくアフリカ出身の学生も集まっており、クラスの中に多様性があるのが大変勉強になった。ただドイツ語を学ぶだけでなく、授業中になにげなく行なっていた会話が相手の価値観や考え方を学ぶことができた。授業以外にも、休日を一緒に過ごし、近隣の都市への旅行や市民プールなどにも行った。各国の友達とのアクティビティが異なったバックグラウンドを持つ人々の価値観を理解する良いきっかけになった。
- Die Sonnmeruni von Bayreuth war die großartige Erfahrung. Ich konnte viele neue Freundinnen bekommen. Natürlich kann ich jetzt besser Deutsch sprechen als damals, als ich nach Bayreuth geflogen bin.
- この１か月は自分の人生の中でも最も濃い１か月でありながら、楽しすぎて一瞬でああった。そして何より、ドイツ語学習へのモチベーションが向上し、様々な人と何一つ不自由なく、ドイツ語で会話、コミュニケーションが取れるようになりたいと強く感じた。確実に今回の講習で自分はレベルアップし成長できたように感じる。これを筑波大学の学問にも活かして精進していきたい。
- 毎朝３時間あるドイツ語の授業、私も生徒として１度も苦痛に思わず、むしろ毎日何が学べるか楽しみに通学していた。いつも笑顔で明るい先生と出合い、愉快でドイツ語を話したくてたまらないクラスメートと毎日のように発言の機会を競争し、笑いながら、また顔をしかめながら受けたドイツ語の授業は１日１日がいい思い出である。数字の数え方に苦戦した日も、ドイツ語で簡単な足し算・引き算ができて算数が苦手な友達と笑いあった日も、単語に合う冠詞が覚えられず英語のように簡単だったらと嘆いた日も、みんなで先生に「先生は私達生徒のことが好きですか？」とドイツ語で質問し、「もちろん」という単語をドイツ語で習った日も、今となってはその全てが素敵な思い出である。素敵な街で素敵な出会いをし、ドイツ語を毎日楽しく学べた機会を与えてくれたバイロイト夏季ドイツ語研修に参加することができ、心からありがたく思う。

感想文の全文は　http://www.germanistik.jp/2018bayreuth.pdf に掲載されている。

バイロイト大学夏期講習の参加者には全員に、「はばたけ」による奨学金と授業単位が与えられるという「おいしい」プログラムであるため、今後も定員以上の参加希望者が出てもおかしくない。https://www.sommeruni-bayreuth.de/website/de/sommeruni にはバイロイト大学夏期講習の HP があり、筑波大学では例年 4 月の新学期開始頃に募集があるので、参加希望者は CEGLOC などを通して、ぜひ早めに情報を獲得し、積極的に参加を考えてください。

平成 30 年度中国語夏季短期研修実施報告

文責：池田　晋

平成 30 年度の中国語夏季短期研修は中国・湖南大学において次頁の日程表の通り実施された。参加者は計 2 名、内訳は社会工学類 1 名、芸術専門学群 1 名であった。

規定の最低催行人数 5 名には達しなかったが、担当者間での協議の結果、2 名でも研修を実施できることとなった。少人数であったにもかかわらず、例年と同等の充実した授業や課外活動を手配してくれており、参加者にとって最高の学習環境を提供していただいた。参加者 2 名の体験談によれば、研修を通して先生方やチューター、現地の中国人と深く交流することができ、かけがえのない体験になったとのことであった。

なお、今回は往路復路とも成田―長沙間の直行便を確保できず、広州経由の乗継便を利用することとなった。海外経験の少ない参加者のみで乗継便を利用するのはやや困難であるとの判断から、往路のみ本学側担当者（池田）が長沙まで同行することにした（8 月 30 日から 9 月 2 日まで）。長沙では、湖南大側担当者の瞿莎蔚副教授、外国語与国際教育学院副院長の張佩霞教授らと交流する機会を得て、今後も両校との交流協定を継続・発展させることを確認した。

研修期間中は大きなトラブルも起こらず、健康かつ安全にプログラムを消化することができた。最終日には、経由地の広州に大型台風が襲来し、搭乗予定の便が欠航になるというハプニングに見舞われたが、湖南大学の先生・チューター・OB の方々のご尽力により、無償で上海経由の便に変更することができ、事なきを得た。湖南大学関係者の皆様には、ここに記して感謝の意を申し上げます。

なお、本研修では今年度も「筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）」による助成を受けることができ、参加者にとっては大きな助けとなった。関係の皆様には改めてお礼を申し上げる次第です。

＜平成 30 年中国語夏季短期研修＞
研修先　　：湖南大学（湖南省長沙市岳麓山）
参加費用　：約 30 万円

平成 30 年度中国語夏季短期研修日程表

8月30日(木)	羽田発　10:45―広州経由―長沙着　21:45
8月31日(金)	8:00　記念写真（岳麓書院）
	8:20　開講式（外国語学院二階201会議室）
	12:00　歓迎会（集賢賓館）
	④～⑤会話／⑥中国文化（歌曲）
9月1日(土)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化（料理：餃子）
9月2日(日)	岳麓書院見学　及び　長沙市内見学
9月3日(月)	①～③基礎中国語／④～⑤会話／⑥中国文化（歌曲）
9月4日(火)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化（料理：楊裕興ラーメン）
9月5日(水)	岳陽楼見学
9月6日(木)	①～③基礎中国語／④～⑤会話／⑥中国文化（舞踊）
9月7日(金)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化（料理：お粥）
9月8日(土)	ホームビジット
9月9日(日)	①～③基礎中国語／④～⑤会話／⑥中国文化（書道）
9月10日(月)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化（料理：伝統点心 火宮殿）
9月11日(水)	①～③基礎中国語／午後　総合復習
9月12日(火)	午前　09:00～11:00試験
	午後　12:00から歓送会
9月13日(木)	研修旅行（湘西鳳凰）へ出発
9月14日(金)	湘西鳳凰古城見学
9月15日(土)	湘西鳳凰古城
	長沙へ戻る
9月16日(日)	長沙発　08:15―広州経由―羽田着　19:45